



学校図書館だより

9月号

令和3年9月
柏市立柏中学校
柏市学校図書館指導員
仲野 真由美

二学期が始まりました。みなさんはどのように夏休みを過ごしましたか？部活動がんばった人、勉強に力を入れた人、読書を楽しんだ人、趣味に集中した人。心も体も一回り大きくなったみなさんとお会いできることを楽しみにしています。二学期もたくさん図書館を利用してくださいね。お待ちしております。

新着本が入りました！

新しく176冊の本が入りました。図書館に展示しますので見に来てくださいね。

展示期間

9/16（木）～24（金）

貸出

9/27（月）～



～秋の香り 菊の節句～



9月9日は重陽の節句。陽数（奇数）のうち、もっとも大きな数字である9が重なる日であるため「重陽（ちょうよう）」と名づけられました。菊の花が咲く時期に重なるため「菊の節句」とも言われています。この日には、長生きの効用があるとされた菊の花を觀賞したり、菊にちなんだ料理を食べたりして長生きを願います。日本には、奈良時代に園芸種の菊とともに伝わってきました。

—『再発見！くらしのなかの伝統文化5』ポプラ社



今月のおすすめ

《パラスポーツを知ろう》

パラリンピックではさまざまなスポーツが行われましたね。
パラスポーツの世界を深めてみましょう。



『可能性は無限大

——視覚障がい者マラソン 道下美里』

高橋 うらら 著 新日本出版社 〈782／ミチ〉

いつも笑顔の道下選手は、「可能性は無限大」という言葉が大好きだそうです。難病のために中学3年生で右目を失明し、20代では見えていた左目の視力が0.01以下になってしまいます。しかし、その後、盲学校に入学し、陸上競技に打ち込み、2016年のパラリンピックでは銀メダルを獲得します。メダルを獲ったことで注目された道下選手は、自分の体験や障がい者としての思いを講演会で多くの人に伝えています。

『勇気ある一歩で世界が変わる！

——車いすバスケット香西宏明』

光丘 真理 著 新日本出版社 〈783／コウ〉

生まれつき両膝から先がない香西選手は、プロの車いすバスケットプレーヤーとしてドイツのチームに所属しています。小学6年生で車いすバスケットと出会い、「世界で認められる選手になる」という目標を持ちます。高校卒業後はアメリカへ留学。全米大学リーグでは、2年連続シーズンMVPを獲得します。パラリンピックは、北京からの3大会に連続出場をしています。

『ライブラリーサーチ』の紹介文の一部引用しています。

『日本のパラリンピックを創った男 中村裕』

鈴木 款 著 講談社 〈289／ナカ〉

まだ「リハビリ」という言葉さえなかった昭和30年代。中村医師は、リハビリ研究者としてパラリンピック発祥の地といわれるイギリスのストーク・マンデビル病院で、車いす患者がバスケットボールをしている姿に衝撃を受けます。「スポーツは障がい者の社会復帰につながる」と考え、1964年の東京パラリンピックを成功させます。日本パラリンピックの父と呼ばれた「中村裕」の生涯が綴られています。

◆学校図書館からお知らせ◆

夏休みに借りた本は速やかに返却しましょう。
短縮日課は昼休みがありません。
入り口にある返却BOXに返却してください。

返却期限
9月10日（金）